

**令和4年度実施
(2022年度実施)**

**雇用主アンケート
調査報告書**

**令和4年(2022年)9月
別府大学短期大学部 就職委員会**

はじめに

本学の雇用主アンケートは、在学中に身に付けさせる学力や資質・能力及びディプロマ・ポリシーに照らして教育の成果や効果を検証し、教育力の向上や改善に資することを目的として、卒業生の雇用先にご協力をお願いして実施しています。

また、同時期に実施している卒業生アンケートについても同様の目的で、卒業生の協力のもと、本学の教育内容の改善に活用させていただいております。

この雇用主アンケートは、短期大学部を卒業した全ての卒業生の雇用先にアンケートの協力依頼を行い、本年度も雇用先から多くの貴重なご意見をいただきました。

この場を借りて、お忙しいなかアンケート調査にご協力いただいた本学卒業生の雇用先の方々に心よりお礼申し上げます。

本委員会で作成した「雇用主アンケート調査報告書」が、学生教育においてディプロマ・ポリシーである、①教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）、②専門力（専門に関する基本的な知識、技能）、③汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）の修得に活用され、本学の教育の質向上の一助になることを心から願っております。

令和4年(2022年)9月

別府大学短期大学部 就職委員会

目次

令和4年度卒業生・雇用主アンケート調査 実施要領	1
雇用主アンケート調査結果	
（1）食物栄養科調査結果	2
（2）初等教育科調査結果	7
「卒業生・雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価実施要領	17
別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー	18
食物栄養科「雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価	20
1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）	20
2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）	21
3. 汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）	21
初等教育科「雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価	23
1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識・技能）	23
2. 専門力（専門に関する基本的な知識・技能及び態度）	23
3. 汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力）	24

別府大学短期大学部 卒業生・雇用主アンケート実施要領

(目的)

第1条 学生の卒業後の進路・就職状況等から、在学中に身に付けさせる学力や資質・能力及びディプロマ・ポリシーに照らして教育の成果や効果を検証し、教育力の向上や改善に資することを目的とする。

(所轄部署)

第2条 当該調査に関する所轄部署は、学生事務部（担当部：キャリア支援課）とし、関連部署（FD委員会および就職委員会）と連携して行う。

(調査対象)

第3条 調査対象は以下の2つとする。

- (1) 本学を卒業した過年度の卒業生
- (2) 卒業生の就職先、学生が就職活動を行っている企業・団体等

(調査方法)

第4条 調査方法は以下の手順で行う。

- (1) キャリア支援課で送付先を抽出する。
- (2) 質問項目は、FD委員会および就職委員会でディプロマ・ポリシーを反映させ検討・作成する。
- (3) アンケート実施期間は、第2四半期から第4四半期の一定期間（10日間程度）を定め、対象者に送付する。
- (4) 送付方法は、郵送または対象者に届く効果的な方法にて送付する。
- (5) 回収方法は、インターネットやファックス等を用い、対象者が回答しやすい方法にて行う。

(集計・分析)

第5条 集計及び分析は下記の部署が担当し、企画運営会議へ報告する。

- (1) 卒業生・雇用主アンケートの集計は、キャリア支援課が担当する。
- (2) 卒業生アンケートの分析および報告書作成は、FD委員会が担当する。
- (3) 雇用主アンケートの分析および報告書作成は、就職委員会が担当する。

(公表)

第6条 企画運営会議は報告に基づき、教授会の儀を経て、年度内に大学ホームページに掲載公表する。

(その他)

第7条 調査方法や質問事項等については、本調査の目的を逸脱しない範囲で修正、変更等を行う。

以上

附 則

この要領は、令和3年4月21日から施行し、令和2年8月1日から適用する。

雇用主アンケート

調査方法	アンケート協力依頼文書を郵送し、WEBによる回答を集計		
調査期間	アンケート協力依頼文書発送日(令和4年8月16日)から同年9月2日回答締め切り		
調査対象	各科とも令和3年度卒業生の雇用先全数調査		
	食物栄養科	35施設(社)	回収率 31.4%
	初等教育科	154施設(社)	回収率 44.0%

食物栄養科【送付：35 回収：11 回収率：31.4%】

【I. はじめに貴施設(社)についての基本事項にお答えください】

問 1-1：御回答いただく貴施設(社)の所在地を市町村までお答えください。

所在地	回答数	割合
大分県大分市	4	36.3%
大分県別府市	2	18.2%
大分県豊後高田市	1	9.1%
大分県国東市	1	9.1%
熊本県熊本市	1	9.1%
東京都	2	18.2%
合計	11	

大分市の施設の回答数が36.3%と最も多く、別府市が18.2%の回答であった。昨年度の県内の就職地域は、大分市51.4%、別府市11.4%、その他の市町村17.1%であり、県外は20.0%であったため、回答所在地と比率は概ね一致していた。

問 1-2：御回答いただく貴施設(社)の従業員数・職員数(企業の場合は全体の人数)をお答えください。

従業員数・職員数	回答数	割合
1～49	5	45.4%
50～99	0	0%
100～199	1	9.1%
200～499	1	9.1%
500～	4	36.4%
合計	11	

昨年度はこども園・保育園に就職したものが全体の 25%近くを占め、それらの施設の特性から 50 名未満という回答が 45.4%を占めていた。また給食受託会社に就職したものが全体の 20%近くを占め、それらの施設の特性から 500 名以上という回答が 36.4%を占めていた。

問 1-3：御回答いただく貴施設（社）の業種をお答えください。

業種	回答数	割合
保育園・保育所	4	36.4%
給食受託会社	3	27.3%
社会福祉法人	1	9.1%
教職	1	9.1%
老人福祉・介護事業	1	9.1%
製造小売業	1	9.1%
合計	13	

保育園・保育所と回答した施設が 36.4%、給食受託会社と回答した施設が 27.3%となり、概ね卒業生の就職先の比率と合致していた。

問 2 現在の本学卒業生が就いている職業（業種）をお答えください。[※複数選択可]

職業（業種）	回答数	割合
栄養士（調理員含む）	9	64.2%
家庭科教諭	1	7.1%
接客	1	7.1%
その他（保育士）※	3	21.4%
合計	14	

※食物栄養科および初等教育科の卒業生が複数いる場合、それぞれの業種を選択

栄養士が 64.2%の割合であり、回答数 11 件での割合をみると全体の 81.8%となっており、卒業生が専門知識を活かして就職していることが伺えた。その他の回答では、保育士が 3 名であり、食物栄養科と初等教育科の両学科の卒業生が就職した施設の回答であることが推察された。

問 3 過去 5 年以内に貴施設に就職した卒業生についてお伺いします。

(ア) 現在、何名が在職していますか。[食物栄養科卒業生のみ]

在職人数	回答数	割合
1 名	10	90.9%
3 名	1	9.1%
合計	11	

今回のアンケートで回答の多かった保育園等の特性として、多くの施設は栄養士の雇用人数が 1～2 名であるため、この間の回答も 1 人の回答数が多かったものと推測できる。また給食受託会社の回答では 3 名と多くの卒業生が継続して働いていることが分かった。

(イ) 離職した卒業生がいる場合、以下の表に記載ください。(採用年月順)

	性別	採用年・月	退職年・月	在職期間	退職理由
1	女	平成 29 年 4 月	令和元年 7 月	2 年 4 か月	結婚退職
2	女	平成 29 年 4 月	令和 2 年 6 月	3 年 3 か月	自己都合
3	女	平成 30 年 4 月	令和 4 年 4 月	4 年	転職希望
4	女	令和 2 年 4 月	令和 2 年 6 月	2 か月	自己都合

※ 勤務期間は調査結果を基に作成者が記入

今回、回答いただいた内容では、離職するまでの期間の最長が 4 年、最短が 2 ヶ月となっており、昨年に比べて 1 年未満の離職者が少なくなっていることが分かった。

問 4 新卒者の採用にあたり、重視していることはどのようなことでしょうか。

- ・理解力、忍耐力、コミュニケーション力。
- ・真面目、子どもが好きな人。
- ・挨拶がきちんとできる。
- ・職員としてふさわしく真面目に業務を遂行できる。
- ・基礎知識、学力よりも、きちんと挨拶ができること。
- ・仲間とのコミュニケーションがとれる。協調性があること。
- ・知識、情熱がある。
- ・自己分析が出来ているかどうか、仕事内容や職場がどのようなところが理解できているか。
- ・意気込み、向上心、協調性、受容性。
- ・新卒の社会人として素直に誠実に挨拶や返事ができること。
- ・子どもが主役の園の方針を理解していただけること。
- ・コミュニケーション能力。

新卒者の採用にあたっては多くの施設が『コミュニケーション能力』や『人間性』を重視しているという回答が多くみられた。また『挨拶ができる』などの接遇マナーを重視しているという回答も多くみられた。

【Ⅱ 2021年に入社した本学卒業生についてお伺いします。】

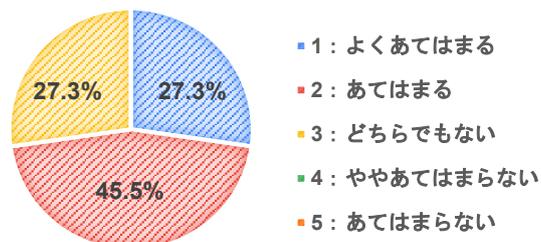
本学卒業生に対する印象について、問5～問9の項目において5段階評価（該当番号に○印）でお答えください。

〔1：よくあてはまる 2：あてはまる 3：どちらでもない 4：ややあてはまらない 5：あてはまらない〕

〈教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）について〉

問5 短期大学を卒業した基礎的な教養（社会的な常識・知識、情報処理や外国語などの基本的なリテラシー）を身につけている。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	3	27.3%
2：あてはまる	5	45.5%
3：どちらでもない	3	27.3%
4：ややあてはまらない	0	0.0%
5：あてはまらない	0	0.0%

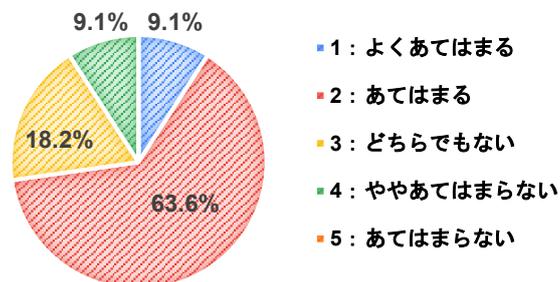


基礎的な教養については、「1 よくあてはまる、2 あてはまる」の合計割合が72.8%を占めており、7割以上の施設の卒業生が基礎的な教養を身につけているとの評価であった。

〈専門力（専門に関する基本的な知識、技能）について〉

問6 専門に関する知識・技能を修得している。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	1	9.1%
2：あてはまる	7	63.6%
3：どちらでもない	2	18.2%
4：ややあてはまらない	1	9.1%
5：あてはまらない	0	0.0%



専門に関する知識・技能の修得については、「1 よくあてはまる、2 あてはまる」の合計割合が72.7%であり、「4 ややあてはまらない」という回答が9.1%あった。7割以上の施設で卒業生は専門力を修得しているとの評価であった。

問7 判断力・表現力を修得し、専門職として職業生活を円滑に始めることができている。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	2	18.2%
2：あてはまる	7	63.6%
3：どちらでもない	2	18.2%
4：ややあてはまらない	0	0.0%
5：あてはまらない	0	0.0%



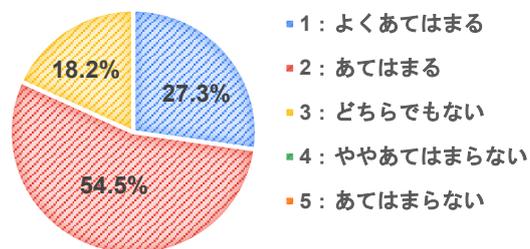
判断力・表現力の修得については、「1 よくあてはまる、2 あてはまる」の合計割合が81.8%を占

めており、8割以上の施設で卒業生は専門職として職業生活を円滑に始めることができていた。

〈汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）について〉

問8 社会で活躍できる思考力と実行力を備え、場面に応じてコミュニケーション能力を発揮している。

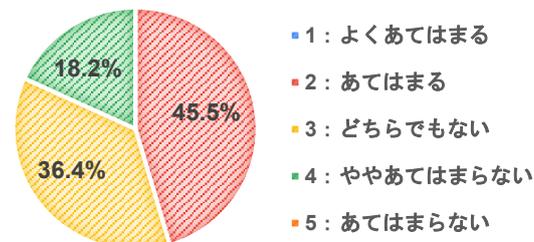
回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	3	27.3%
2：あてはまる	6	54.5%
3：どちらでもない	2	18.2%
4：ややあてはまらない	0	0.0%
5：あてはまらない	0	0.0%



「1 よくあてはまる、2 あてはまる」の合計割合は81.8%を占めており、8割以上の施設で卒業生は思考力や実行力を備え、コミュニケーション能力を発揮していることが分かった。

問9 国際的な動向に関心を持ち、社会生活に必要な情報通信技術を活用している。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	0	0.0%
2：あてはまる	5	45.5%
3：どちらでもない	4	36.4%
4：ややあてはまらない	2	18.2%
5：あてはまらない	0	0.0%



「1 よくあてはまる」の回答数は0であったが、「2 あてはまる」の回答が45.4%を占め、「4 ややあてはまらない」とした回答が18.2%であった。国際的な動向への関心や情報通信技術の活用については、他の項目に比べて低い評価ではあったが、昨年と比べると評価は高くなっていることが推察された。

問10 その他、ご意見ご要望などございましたらご記入ください。

- ・とても一生懸命に仕事をしてきています。良い方に来てもらいました。ありがとうございます。
- ・挨拶が出来て、職場の仲間との人間関係が上手にできる子の方が能力を発揮できている様に感じています。仕事も楽しく取り組んでいる様に見えます。
- ・社会人としての一般常識が得られていることが望ましい。

卒業生に期待するお褒めの言葉がある一方で、社会人としての一般常識の習得が必要であるとのご意見をいただいた。

初等教育科【送付:154 回答:69 回答率 44.0%】

【I はじめに貴施設(社)についての基本事項をお答えください。】

問1 ご回答いただく貴施設(社)の所在地及び従業員数・職員数(企業の場合は全体の人数)、業種をお答えください。

1) 所在地

所在地	回答数	割合
大分県大分市	31	44.9%
大分県別府市	10	14.5%
大分県臼杵市	2	2.9%
大分県速見郡日出町	4	5.8%
大分県由布市	2	2.9%
大分県中津市	5	7.2%
大分県杵築市	2	2.9%
大分県国東市	2	2.9%
大分県竹田市	1	1.4%
大分県津久見市	2	2.9%
大分県日田市	1	1.4%
大分県豊後高田市	2	2.9%
大分県宇佐市	1	1.4%
県外	4	5.8%
合計	69	100%

大分市からの回答が多く 44.9%であった。次いで、別府市 14.5%であった。昨年とデータと比較すると、昨年は大分市 44.8% 別府市 16.4%であり、今年度は別府市からの回答が低かった。今年度は、中津市、豊後高田市からの回答が 2 件増加、中津市豊後大野市から 3 件の回答が減った。日出町や大分市なども 1 件ずつ増加がみられ、全体的に 69 件と昨年度よりも 2 件の増加があった。回答所在地はほぼ一致している。

2) 従業員数・職員数

従業員数・職員数	回答数	割合
1～49	56	81.1%
50～99	11	16.0%
100～199	0	0.0%
200～	2	2.9%
合計	69	100%

従業員や職員数が 50 人未満の施設が多く、81.1%であった。昨年度より 5 件の回答が増加している。回答でもこども園・保育園・幼稚園に就職をしていることがわかる。

3) 業種

保育所（園）	28	40.5%
幼稚園	3	4.3%
認定こども園	17	24.6%
小学校	11	16.0%
施設	4	5.8%
その他	6	8.7%
	69	100%

今年度は、小学校からの回答数が多かったやめ、新たに枠を設けた。昨年度の小学校への就職が多かったことがうかがえる。保育園やこども園への就職も多く 2 種免許状を活かした就職で先からの回答が多いことが分かる。

問2 現在の本学卒業生が就いている職業（業種）をお答えください。[※複数選択可]

職業（業種）	回答数	割合
保育士	36	52.1%
保育教諭	20	29.0%
幼稚園教諭	5	7.2%
小学校教諭	14	20.2%
事務（受付、窓口 業務、経理等）	1	1.4%
その他	9	13.0%

卒業生が複数（食物・初教）いる場合、それぞれを選択前問 3)と同様、卒業生は専門資格を活かして就職していることがうかがえる。事務・その他の職業は食物栄養科と初等教育科の両学科の卒業生が就職した施設の回答であることが推察される。

問3 過去5年以内に貴施設に就職した卒業生についてお伺いします。

(ア) 現在、何名が在職していますか。[初等教育科卒業生]

在職人数	回答数	割合
1人	24	34.7%
2人	8	11.5%
3人	11	15.9%
4人	9	13.0%
5人	7	10.1%
6人	3	4.3%
7人	3	4.3%
8人	1	1.4%
10人	3	4.3%

小学校の就職が多かったことから、1名の在職が前年度よりも6名増加している。また、小規模の施設に就職している学生が多い中で、複数人在職している施設もあり、3人が11施設、4人が9施設、10人以上が在職している施設が3施設あり、本学の卒業生が就職していることがわかる。

(イ) 離職した卒業生がいる場合、以下の表に記載ください。(採用年月順)

	性別	採用年・月	退職年・月	在職期間	退職理由
1	男	平成29年4月	令和2年3月	3年	公立小学校へ
2	女	平成29年4月	令和2年3月	3年	公立小学校へ
3	女	平成30年4月	令和2年3月	2年	公立小学校へ
4	女	平成30年4月	令和2年3月	2年	公立小学校へ
5	女	H31年3月	R2年3月	2年	自己都合
6	女	H31年3月	R2年3月	2年	自己都合
7	女	H31年3月	R3年8月	3年4か月	自己都合
8	女	R4年3月	R4年4月	1か月	自己都合
9	女	平成24年4月	令和3年3月	9年	結婚
10	女	平成30年4月	令和3年3月	4年	転職
11	女	平成27年4月	令和4年3月	7年	結婚
12	女	令和3年4月	令和3年10月	6か月	病気診断書は1か月のみ、後は病気と嘘をつき続け規則に則り退職手続き処理となる。
13	女	平成29年4月	令和2年3月	3年	親の転勤に伴い退職
14	女	平成24年4月	令和2年3月	8年	結婚
15	女	平成31年4月	令和元年7月	3か月	妊娠
16	女	令和元年4月	令和3年9月	2年5か月	体調不良の為
17		平成24年4月1日	令和4年3月31日	10年	私事都合
18	女	平成28年4月	平成30年3月	2年	家庭の都合のため
19	女	2018.4.1	2019.10.31	1年7か月	人間関係
20	女	平成29年4月	令和4年3月31日	5年	妊活のため
21	女	平成30年4月	令和4年3月	4年	結婚予定のため
22	女	平成26年4月	令和4年3月	8年	長女入学のため
23	女	平成29年4月	令和4年3月	5年	自己都合のため
24		平成31年4月	令和4年3月	3年	一身上の都合
25	女	H30.4月	H30.10月	6か月	病気のため
26		平成29年4月	平成30年4月	1年	結婚のため
27	女	平成28年4月	令和4年3月	6年	転職のため
28	女	平成28年4月	令和3年3月	5年	結婚のため
29	女	平成31年4月	令和4年3月	3年	転職の為
30	女	平成27年4月	令和3年4月	6年	転職のため
31	女	平成27年4月	令和4年4月	7年	自主退職
32	男	平成30年4月	令和3年3月	4年	他園に転職
33		平成29年4月	令和4年4月	5年	結婚のため
34	女	平成31年4月	令和4年3月	3年	転職
35	女	平成26年4月	平成29年3月	3年	結婚の為
36	女	令和3年4月	令和3年5月	1か月	体調不良
37	女	平成30年4月	令和3年3月	3年	結婚のため
38	女	平成29年4月	令和2年7月	3年3か月	
39	女	平成28年4月	令和4年3月	6年	

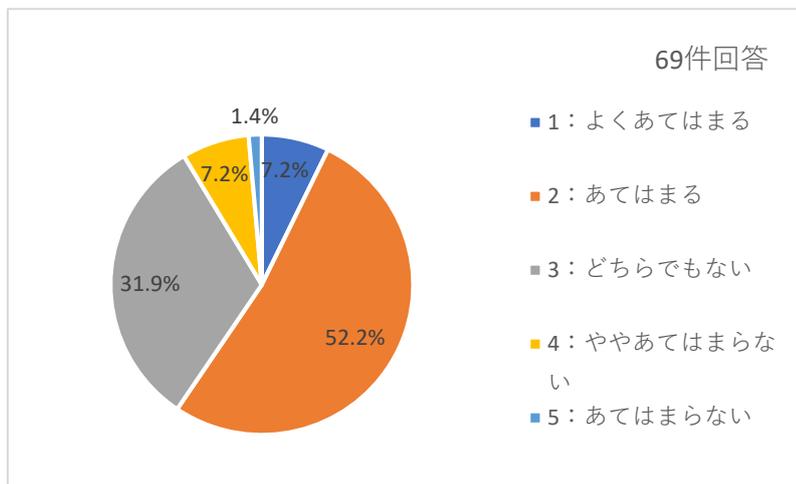
コメント:1年に満たない離職者が5名おり、いずれの理由も体調不良などが多かった。公立小学校や転職をするものが10人と多い傾向にある。自己都合も多く、詳細は不明で任期の半ばで離職していることが分かった。

問4 新卒者の採用にあたり、重視していることはどのようなことでしょうか。

人間性 性格	人柄 人間的資質 誠実さ・人間関係が持てる人 保育に向き合う姿勢や協調性、人間力 素直さ 俯瞰力 素直な気持ちで仕事に取り組む姿勢があるか。困難なことにも立ち向かおうとする姿勢があるか。 こどもが好きで保育が楽しいと感じている。人間性（素直） 明朗快活であり、個々の子供を尊重し、優しく接することができる方を希望します。大学の推薦、人間性、意欲等（13）
明るい性格（笑顔・活発・プラス思考・ユーモア精神）	・素直な気持ちで仕事に取り組む姿勢があるか。困難なことにも立ち向かおうとする姿勢があるか。 ・明朗快活であり、個々の子供を尊重し、優しく接することができる方を希望します。（5）
人間性・性格	気持ちの良い挨拶ができる 協調性がある 報連相ができる 人間性（素直）（5）
コミュニケーション能力	コミュニケーションなどのスキル、協調性、やる気、即戦力として期待できるか 子ども・保護者との信頼関係 授業力・生活指導力 コミュニケーション能力や素直さ。前向きな態度。明るさなど。社会常識、協調性その他（7）
保育教諭として必要なスキル	ピアノ、コミュニケーションなどのスキル
心身ともに健康な人	心身の健康・社会性 健康で表情が豊かなこと 心身共に健康であること 心身ともに健康な人、コミュニケーション能力、行動力、協調性のある人
子どもへの愛情・子ども好きである	子どもが好きで保育が楽しいと感じている。子どもを大切にしてください方 子どもへの愛情
保育の仕事に対する情熱・姿勢	の方針に合わせ、こどもたちのことを思い保育、教育に意欲的に取り組む姿勢、こどもたちを思い、おいしい給食、おやつをつくらうとする姿勢。自分のもっている技術を生かそうとする姿勢が見られること。チーム保育等、保育の方針への理解 子どもへの眼差し。仕事に対する誠実さ、やる気。
社会性	新卒の社会人として素直に誠実に挨拶や返事ができること。気持ちの良い挨拶ができる 協調性がある 報連相ができる。県教育委員会の採用（2） 社会との関わり（バイト経験など） 基本的な社会性、明るさ。（5）
自己研鑽と意欲	専門的能力 専門的知識技能・意欲 学ぼうとする意欲 アドバイスに対して反応できるチカラ。返事をする、すぐやってみる、やってどうだったか報告する。質問するなど。自ら行動できる積極性を持っていること。

コミュニケーション能力や対人関係スキルなど社会人基礎力や人としての誠実さや責任が多くあげられていた。人間性ややる気、意欲、情熱なども向上心、学び意欲なども向上心や自己研鑽なども重視していることがわかる。保育所保育指針や法人への協力も期待している。

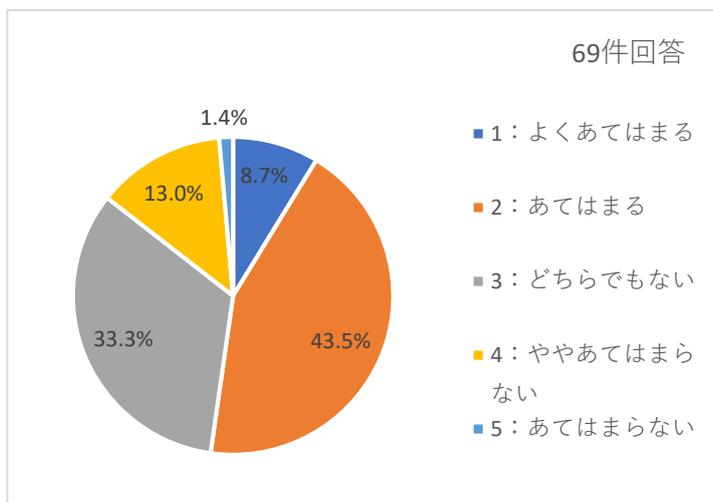
問 5. 短期大学を卒業した基礎的な教養(社会的な常識・知識、情報処理や外国語などの基本的なリテラシー)を身につけている。



コメント:「1よくあてはまる」「2あてはまる」を合わせると 84.1%と高い割合であるがわかる。「4ややあてはまらない」「5あてはまらない」は 1 割をこえない状況であった。

回答番号	回答数	割合
1: よくあてはまる	5	7.2%
2: あてはまる	36	52.2%
3: どちらでもない	22	31.9%
4: ややあてはまらない	5	7.2%
5: あてはまらない	1	1.4%

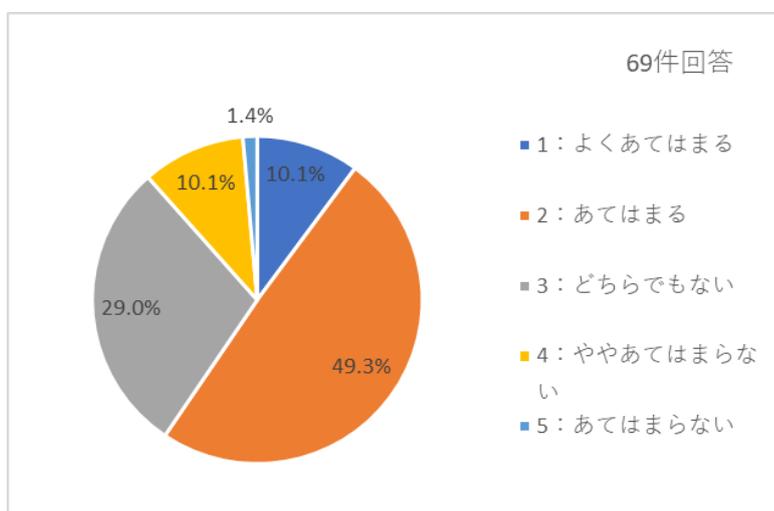
B. 専門力(専門に関する基本的な知識、技能)について



「1よくあてはまる」「2あてはまる」を合わせると 52.2%と半数程度、36 施設の回答があった。しかし、「4ややあてはまらない」「5あてはまらない」は 14.4%と昨年より高く、10 施設からの回答があった。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	6	8.7%
2：あてはまる	30	43.5%
3：どちらでもない	23	33.3%
4：ややあてはまらない	9	13.0%
5：あてはまらない	1	1.4%

問 7. 判断力・表現力を修得し、専門職として職業生活を円滑に始めることができている。

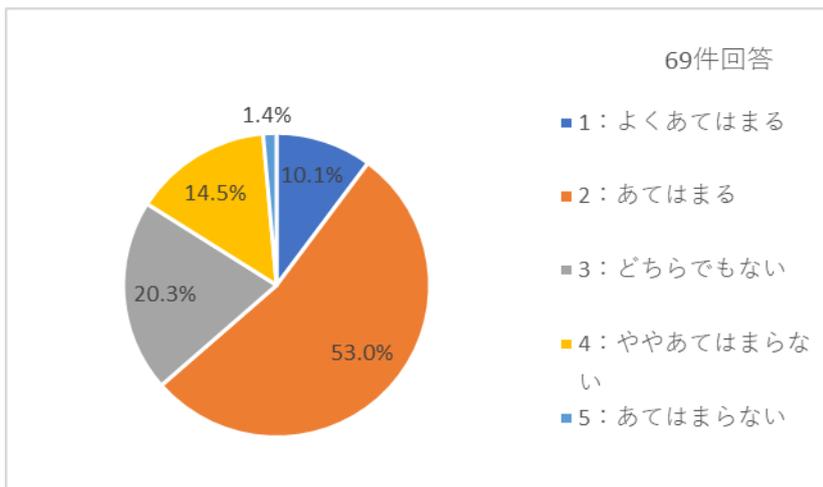


「1よくあてはまる」「2あてはまる」を合わせると59.4%と高い割合であることがわかる。専門職としての生活が円滑に行われつつあることが分かる。しかし、「4ややあてはまらない」「5あてはまらない」は11.5%と1割を超えており、個人差が影響しているのではないかと考える。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	7	10.1%
2：あてはまる	34	49.3%
3：どちらでもない	20	29.0%
4：ややあてはまらない	7	10.1%
5：あてはまらない	1	1.4%

C. 汎用力(社会で活躍できる汎用性のある能力)について

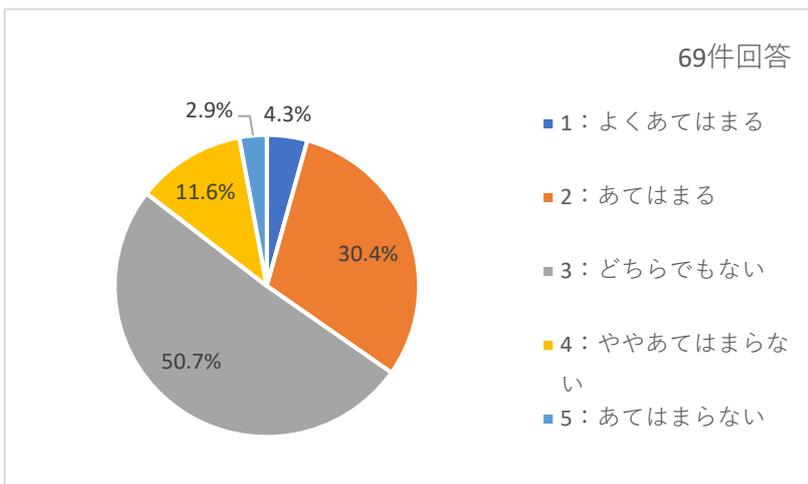
問 8. 社会で活躍できる思考力と実行力を備え、場面に応じたコミュニケーション能力を発揮している。



「1よくあてはまる」「2あてはまる」を合わせると 73.3%と高く、思考力や実行力を備え、コミュニケーション能力を発揮している。しかし、「4ややあてはまらない」「5あてはまらない」は 15.5%と 1 割を超えており、社会で活躍できる能力が発揮できていない卒業生もいることがうかがえる。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	7	10.1%
2：あてはまる	37	53.0%
3：どちらでもない	14	20.3%
4：ややあてはまらない	10	14.5%
5：あてはまらない	1	1.4%

問 9. 国際的な動向に関心を持ち、社会生活に必要な情報通信技術を活用している。



「1よくあてはまる」「2あてはまる」を合わせると 34.7%であり、「3どちらでもない」が大半を占めている状況であった。「4ややあてはまらない」「5あてはまらない」は 14.5%と 1 割をこえており、国際的な動向への関心が無いことや機会が不足していることがうかがえる。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	3	4.3%
2：あてはまる	21	30.4%
3：どちらでもない	35	50.7%
4：ややあてはまらない	8	11.6%
5：あてはまらない	2	2.9%

問 10. その他、ご意見ご要望などございましたらご記入下さい。

- 0才児クラスで頑張ってくれています。
- 社会人としての一般常識が得られていることが望ましい。
- 最近の学生は挨拶を知りません。先輩に対して目を見て挨拶をする。前を向いて挨拶するなど出来ていません。毎回、先生や学生に話させてもらいますが、出来ていません。挨拶は人として当たり前の事です。また子どもたちを保育していく上でも大切なことです。学生にマナーとして伝えて欲しいです。
- 誤字、脱字が多いのが、気になります。
- 保育現場と保育理論には乖離があるので大変だと教える方も大変だと思いますが、当保育所としては折角保育士を目指された学生が保育士として永く勤務できるように、意見を聞きながら雇用を継続できるように努力します。
- コロナ禍で遊びの中で学べていないせいか、主体性が低い、社会人として非常に未熟です。
- コロナ禍ではありますが、学生さんにバーチャルでない多くの経験を積ませていただきたいです。
- SNSを介して、大学の仲間で勤務園の事、子どもの事など共有している様子があります。個人情報の取り扱いや守秘義務等の法令遵守を授業等で扱っていただけると、ありがたいです。
- 今時の子だと思います。言われた事はやっています。まだ日も浅い事もありますので、なんとも言えないのですが、まだ学生気分が抜けていない感じはあります。とてもメンタル面は強いので、良いところでもありますが、気にして欲しいなど思う事もあります。これからだと思いますので、仕事を続けていく事で、仕事の楽しさを感じてもらえたらいいなと思っています。
- 非常に真面目で仕事にも真摯に取り組んでいます。柔軟な対応力で、子どもとの関わりをしています。
- 保育力と同時に社会人としての素養を身につけてほしい
- 先輩の指導、助言に素直に耳を傾け、前向きに仕事に取り組もうとしている。
- それぞれ人により多様性があり、得意な面不得意な面があります。個々の良さを生かしながら、保育士として成長していけるように、卒業生の皆さんを仲間として育てていきたいと考えています。
- 本園の卒業生の職員は、意欲的に仕事に取り組む方が多いです。
- 貴校の卒業生は大変優秀ですので是非、本年度も採用させていただきたくよろしく願いいたします。
- OJTが中心となるが、保護者対応等で苦勞していると感じる。
- 遠方からの就職ですが、とても前向きで素直です。分からないことは積極的に確認して頑張っています。現在、宿舍借り上げ制度を利用し、しっかり生活できています。ぜひ、大阪で働きたい方がいらしたら大歓迎です。先輩もいるので、お待ちしております。
- 今年度採用者は楽しいと言って仕事をしてきている。(中略)公私のけじめのある、誠実な学生に来て頂きたい。
- とても礼儀正しいです。
- 授業づくり、学級経営等について学び続けることができる人材育成をお願いします。
- 困った事や疑問に思った事はどんどん聞いて来て下さい。
- 1年目の先生に対して5段階評価は難しいかと思われまます。
目標、やる気、意欲がみられるので、その点では評価できると思われまます。
- 地元の養成校として保育を志す学生をできれば地元の現場へたくさん送り出して頂きたいと希望します。

- ・打てば響くので、可能性を感じます。
- ・今年の採用者は学ぼうとする意欲があります。職員会議でも新人だから無言ではなく、礼節を保った態度で、自分なりに考えた結果の発言等があり、将来に期待があります。

上記のご意見をいただきました。

「別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー」に基づく雇用主アンケートの結果による DP 達成度評価

「卒業生・雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価実施要領

令和元年 6 月 12 日

短大企画運営会議

目的

別府大学短期大学部「アセスメント・ポリシー」では学修到達状況の評価指標の一つに「卒業生調査による「卒後評価」」が定められている。このアセスメント・ポリシーに基づき、「平成 30 年度卒業生・雇用主アンケート」の結果から DP 達成度を評価し、現在の教育・研究内容の課題を明らかにすることを目的とする。

実施方法

- (1) 「平成 30 年度卒業生・就職先アンケート」の結果を踏まえ、各学科の DP 3 領域 15 項目（教養 5 項目、専門 6 項目、汎用 4 項目）について、それぞれ 4 段階で到達度を評価し、その判断理由を 200 字程度で記入する。
- (2) 4 段階の評価基準は次の通りとする。

評価	評価の基準
4	DP の達成度が 80%～100%
3	DP の達成度が 60%～80%
2	DP の達成度が 40%～60%
1	DP の達成度が 40%以下

- (3) DP 到達度の評価は、1 項目を 2 名以上の教員で評価することとし、また、出来るだけ多くの教員で分担して実施する。
- (4) 3 領域（教養、専門、汎用）毎に達成度及び前回評価結果からの改善についての総評を 200 字程度で記入する。
- (5) DP 到達度評価は評価用紙に記入する。各学科で評価結果をとりまとめて学科長が学長補佐（教務担当）に提出する（7 月 26 日（金）を〆切とする）。

評価結果の集約

各学科の DP 到達度評価結果は学長補佐（教務担当）が集約する。

評価結果の報告

全体の評価結果は学長に報告した後に短大企画運営会議で報告する。

平成 30 年 9 月 12 日
別府大学短期大学部学長裁定

1. 目的

別府大学短期大学部は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、厳格で客観的・公正な成績評価を行ない、かつ、成績評価を含めた複数の方法で学生の学修到達状況を多角的・総合的に評価することによって、教育の質の向上及び教育の質の保証を行う。

2. 成績評価

別府大学短期大学部は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、シラバスに明示した授業の到達目標及び評価方法並びに学科履修規程に明記された成績評価の区分によって、厳格で客観的・公正な成績評価を行う。

3. 成績評価を含めた多角的な学修到達状況の評価

別府大学短期大学部は、2. の成績評価に加え、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、各学科・課程等（学位又は教育プログラム策定単位）を基本に、その学修内容等に応じ、下記から選択した複数の方法で学生の学修到達状況や達成すべき質的水準を多角的・総合的・客観的に検証（測定）・評価する。このことによって、ディプロマ・ポリシーを起点としたPDCAサイクルを回し、授業内容、授業方法、評価基準、カリキュラム、入学者選抜などについて改善を図るとともに、ディプロマ・カリキュラム・アドミッションの各ポリシーについて必要な見直しを行う。さらに、学修成果(到達目標)の達成度評価を集約し、別府大学短期大学部全体の学修成果の達成状況を評価する。

① ポートフォリオ学修支援システムでの「学生による評価」

学生自身が、ポートフォリオ学修支援システムを利用して、学修成果(到達目標)の達成度を自己評価する。

② 口頭試問での「教員による評価」

卒業時に修得することが期待される学修成果(到達目標)を、発表または口頭試問によって評価する。

③ まとめ試験による「客観評価Ⅰ」

科目区分毎に「まとめ試験」による内部アセスメントテストを行い、修得することが期待される学修成果(到達目標)について達成度を確認する。

④ 外部テスト等による「客観評価Ⅱ」

客観的な評価を行うために、外部テストなどを利用した学修成果(到達目標)の達成状況を評価する。

⑤ 卒業生調査による「卒後評価」

別府大学短期大学部での教育への評価、職業生活や社会生活での必要な知識と能力、別府大学短期大学部への希望などについて、卒業生への調査を行うことで、学修成果（到達目標）の達成状況を評価する。

⑥ 地元社会・産業界からの「外部評価」

在学生においては、実習先訪問や実習連絡会議等を通して、学外実習先の企業や施設などでの学生に対する評価を把握し、到達目標の達成度を評価する。卒業生においては、就職先の企業等での卒業生に対する評価を把握し、到達目標の達成度を評価する。

食物栄養科「雇用主アンケート」による DP 達成度評価

食物栄養科は、本学の定める課程を修了し、「教養」、「専門力」、「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に短期大学士（栄養学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

4段階の評価基準は次の通りとする。

評価	評価の基準
4	DP の達成度が 80%～100%
3	DP の達成度が 60%～80%
2	DP の達成度が 40%～60%
1	DP の達成度が 40%以下

1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）

短期大学を卒業した基礎的な教養（社会的な常識・知識、情報処理や外国語などの基本的なリテラシー）を身につけている。（問5）

評価（1～4）	理由
3	基礎的な教養の修得については、「よくあてはまる（27.3%）」と「あてはまる（45.5%）」の肯定的な回答が72.8%であり、概ね7割の卒業生が基礎的な教養を身につけていると言える。「ややあてはまらない」と「あてはまらない」の否定的な回答はなかったことから、教養の DP 達成度は評価を3とした。

教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）DP達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

教養の評価について、肯定的な回答は約7割であり、前年度（約5割）と比較するとかなり高い結果となった。回答数は少ないが、基礎的な教養は概ね修得できていると思われる。前年度は早期に離職した卒業生が多かったことから、否定的な回答数が多くなっていた。今年度は早期に離職した卒業生が少なく、個別の意見でも概ね高い評価を受けており、教養の修得に関しては一定の成果が上がっているものと考えられる。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）

- ・専門に関する知識・技能を修得している。（問6）
- ・判断力・表現力を修得し、専門職として職業生活を円滑に始めることができている。（問7）

評価（1～4）	理由
3	<p>専門に関する知識・技能を修得しているかについては、「よくあてはまる（9.1%）」と「あてはまる（63.6%）」の肯定的な回答が72.7%であり、概ね7割の卒業生が専門的な知識・技能を修得していると言える。</p> <p>また、判断力・表現力を修得し、専門職として職業生活を円滑に始めることができているかについては、「よくあてはまる（18.2%）」と「あてはまる（63.6%）」の肯定的な回答が81.8%であり、概ね8割の卒業生が専門職として職業生活を円滑に始めることができている。</p> <p>以上のことから、専門力のDP達成度は肯定的な回答が約7割以上であることから評価を3にした。</p>

専門力（専門に関する基本的な知識、技能）DP達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

専門力の評価について、肯定的な回答は約7割以上であり、前年度（約4割）と比較するとかなり高い結果となった。回答数は少なかったが、栄養士として就職した施設からの回答が多かったことが影響していると思われた。また前年度は、早期離職者の影響や新型コロナウイルス感染拡大による遠隔授業が影響していると考えたが、今年度は前年度に比べて評価が高くなったことから、感染症対策を講じながらも専門的な知識及び技能を修得するための授業や学校行事を実施することができたと推察された。

3. 汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）

- ・社会で活躍できる思考力と実行力を備え、場面に応じてコミュニケーション能力を発揮している。（問8）
- ・国際的な動向に関心を持ち、社会生活に必要な情報通信技術を活用している。（問9）

（評価（1～4））	理由
3	<p>社会で活躍できる思考力と実行力を備え、場面に応じてコミュニケーション能力を発揮しているかについては、「よくあてはまる（27.3%）」と「あてはまる（54.5%）」の肯定的な回答が81.8%であり、概ね8割以上の卒業生が修得していると言える。</p> <p>国際的な動向に関心を持ち、社会生活に必要な情報通信技術を活用しているかについては、「よくあてはまる」の回答は0%であったが、「あてはまる」</p>

	<p>の肯定的な回答が 45.5%であり、前年度（約 2 割）と比較すると高い結果であった。一方で「ややあてはまらない」の否定的な回答は 18.2%であり、情報通信技術の活用については修得できていない学生が 2 割程度いることがわかった。</p> <p>汎用力の DP 達成度は、肯定的な回答が 5 割から 8 割であることから評価を 3 にした。</p>
--	--

汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）DP達成度及び前回評価結果からの改善についての総評	
<p>汎用力の評価について、各項目において肯定的な回答の割合が前年度と比較して高くなった。前年度に比べて、感染症対策を講じながらも対面授業の回数が増えたことや学校行事などを実施することで汎用力の修得につながったと思われる。</p> <p>国際的な動向に関心を持ち、社会生活に必要な情報通信技術を活用しているかについては、前年度に比べて評価は高くなっていたが、他の項目に比べて低かったことから今後指導を強化していくことが強く求められる。</p>	

初等教育科「雇用主アンケート」によるDP達成度評価

初等教育科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に、短期大学士（教育学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）

短期大学を卒業した基礎的な教養（社会的な常識・知識、情報処理や外国語などの基本的なリテラシー）を身につけている。（問5）

評価（1～4）	理由
3	「よくあてはまる」との回答が7.2%であり、「あてはまる」との回答が52.2%である。6割を超える回答となっていることから基礎的な教養を概ね身につけていると言える。 一方、「どちらでもない」との回答が31.9%であり、やや高い回答となっていることが注視すべき点である。

教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）DP達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

雇用主アンケートの評価から、3の評価が得られ、個人差はありつつも教養は概ね修得できていると思われる。

自由意見においては、基礎的能力に関する意見もありながら、本学の卒業生に対して多くの期待を寄せられていることが認められた。特にコミュニケーション能力や対人スキルを重視している傾向がみられた。若干の個人差もあるものの一定の評価を得ていると言える。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）

- ・専門に関する知識・技能を修得している。（問6）
- ・判断力・表現力を修得し、専門職として職業生活を円滑に始めることができている。（問7）

評価（1～4）	理由
3	問6については、8.7%が「よくあてはまる」、43.5%が「あてはまる」と回答し、概ね5割が修得していると評価している。一方、「どちらでもない」との回答が33.3%であり、「ややあてはまらない」13.0%、「あてはまらない」1.4%となっている。 また、問7については、10.1%が「よくあてはまる」、49.3%が「あてはまる」と回答し、概ね6割ができていると評価している。一方、「どちらでもない」との回答が29.0%であり、「ややあてはまらない」10.1%、「あてはまらない」1.4%となっている。

専門力（専門に関する基本的な知識、技能） DP達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

専門力の評価については、3の評価であり基礎的な専門力は概ね修得できていると考えられるが前回より若干の低下が認められた。

自由意見では、本学卒業生への専門力の修得について一定の評価を得ていると思われる。一方で専門職として職業生活を円滑に始めることができているかという項目において個人差も見受けられ、さらに学生時代の知識・技能に加え、主体的な活動に関する要望も見受けられた。

3. 汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）

- ・社会で活躍できる思考力と実行力を備え、場面に応じてコミュニケーション能力を發揮している（問8）
- ・国際的な動向に関心を持ち、社会生活に必要な情報通信技術を活用している。（問9）

（評価（1～4））	理由
2	<p>問8では、10.1%が「よくあてはまる」、53.0%が「あてはまる」と回答し、概ね6割が修得していると評価している一方、「どちらでもない」との回答が20.3%であり、「ややあてはまらない」14.5%、「あてはまらない」1.4%となっている。</p> <p>また、問9では、4.3%が「よくあてはまる」、30.4%が「あてはまる」と3割程度にとどまっている。一方、「どちらでもない」との回答が50.7%であった。</p>

汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力） DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

思考力、実行力、表現力については概ね修得できているが前回の調査と比較すると若干の低下が認められた。自由記述から就職先においても学び続ける意欲や姿勢が求められていることから、在学中から主体的な学びの指導が必要である。

現状から国際的動向については發揮できる事象や関心を向ける機会が依然として不足していることが推察される。情報通信技術については就職先において現状での活用の方や發揮できる場の不足も考えられる。